

# 守谷ボランティア NEWS

2024年2月号 (毎月1日発行)



<発行> 守谷市民活動支援センター  
〒302-0119 守谷市御所ヶ丘5丁目25番1  
守谷市市民交流プラザ2階  
電話: 0297-46-3370 FAX: 0297-46-3320  
Email: supportcenter@moriya-cac.org  
ホームページURL: <https://moriya-cac.org/>  
開館時間: 午前10時～午後6時(午後9時まで延長可)  
休館日: 月曜日、年末年始

## 花を取り入れたナチュラルライフ

生活の中に植物を取り入れて、疲れた心を元気にしましょう。植物に触れたり、作品を作ったりすることで、健康的な生活が送れるよう提案します。

- 日時 毎月第3水曜日 13:30～
- 講師 花と暮らす会 岡部・志小田
- 会場 市民活動支援センター 会議室
- 参加費 2,000円程度(材料費)
- 定員 各20人
- 申込方法 それぞれ開催日の2週間前までに電話で申し込む
- 申込・問合せ先  
岡部 ☎090-6139-6224



※材料の入荷状況により、内容を変更する場合があります。ご了承ください。

令和6年	4月17日	母の日アレンジメント
	5月15日	生花アレンジメント
	6月19日	夏のリース
	7月17日	ドライフラワーアレンジメント
	8月21日	ハーバリウム作り
	9月18日	プリザーブドフラワーアレンジ
	10月16日	生花アレンジメント
	11月20日	クリスマスアレンジ
	12月18日	お正月しめ飾り
令和7年	1月15日	バレンタインアレンジ
	2月19日	お雛様アレンジメント
	3月19日	テラリウム作り

## 講演会 終末期ケア・在宅看取りをしてきた写真家の話

- 日時 3月3日(日)13:30～(開場 13:00)
- 会場 中央公民館(もりりん中央)ホール
- 定員 350人
- 参加費 500円
- 申込方法 申込フォームから申し込む
- 主催 守谷市文化協会「映画・講演の会」
- 問合せ先 yuan28003@gmail.com(原)



## ボランティア活動証明書を発行します!

ボランティア団体の皆さん、ボランティアに参加した学生さんに対して、活動証明書の発行を行っています。ボランティア活動を希望される方は、センターホームページをご覧ください。

- 問合せ先 市民活動支援センター



スマートライフ倶楽部SLC もりんくる  
「デジタル講座実践編」 「こども食堂」

## 登録団体活動情報 2月

各団体の活動予定は変更になる場合があります。事前に各問合せ先にご確認ください。  
※ボランティア証明書を発行します

団体名	場所	活動日	問合せ先
手話サークルふれあい 手話の学習・交流	中央図書館・中央公民館	毎週金曜日(第5金曜日は休み) 10:00～12:00	川畑 090-6500-0266
守谷駅前クリーンズ 守谷駅前ゴミ拾い	守谷駅西口広場(階段下集合)	第3(日) 9:00～10:00	会田 090-3335-7227 ✉ aida104302@yahoo.co.jp
立沢里山の会 里山整備	立沢里山	第3(土) 9:00～12:00	市民活動支援センター
守谷おりがみクラブ おりがみ教室	守谷市民活動支援センター	第2(土) 13:30～15:30	川名 090-7242-4888

## 助成金情報 \*内容は変更になる場合があります。各HPをご確認ください。

社会教育	～2/16 こども食堂スタート応援助成プログラム 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ <a href="https://musubie.org/support/">https://musubie.org/support/</a>
医療福祉	～2/17 一般助成 公益財団法人洲崎福祉財団 <a href="https://swf.or.jp/">https://swf.or.jp/</a>
医療福祉 社会教育	～2/29 助成事業(団体) 公益財団法人ノエビアグリーン財団 <a href="https://www.noevirgreen.or.jp/">https://www.noevirgreen.or.jp/</a>

## 豆コラ

「olly(オリー)」は、SDGsの達成を目指して取り組む高校生団体です。Z世代の行動力と創造力を活かして、ゴミ拾いプロジェクトなどの環境やまちづくりの課題を解決しています。Z世代は、リサイクル制度が普及し、多様性を重んじる教育を受けて育ってきた世代です。社会問題や環境問題に対する意識が高いという特徴があります。Z世代を対象とした調査では、モノを買う場合、89%が「社会問題や環境問題に取り組んでいる企業から買いたい」と答えていました。それらの問題を自分事として捉える意識が根付いており、モノを選ぶ基準の一つになっているようです。年齢が高い世代は、ボランティアを利他的なものとして捉えているのに対して、Z世代は新しいスキルや経験を得るための手段と見ていることも調査でわかりました。活動を通して人や社会に触れ、自分の経験を豊かにしていきたいという考えなのかもしれません。「より良い社会にしたい」という思いが強いZ世代が、今後のボランティアを変えていきそうです。

## 子どもの貧困 ～未来へつなぐためにできること～

2023年11月18日（土）@市民交流プラザ・ギャラリー

今回の講演会は、NPO 法人キッズドア代表の 渡辺由美子さんを講師にお招きして開催しました。参加者の中には松丸市長をはじめたくさんのボランティア団体の方やこれからボランティア活動を始めようと思っている方がいらしていました。

渡辺先生は、自身の子育て中に「塾に通いたくても通えない」「必要とするものが買えない」「食事もきちんと取れていない」という子どもが身近にいることを知り、何か自分にもできることはないかと支援ボランティアを始めました。そして多くの方のご協力でNPO 法人キッズドアを設立。子どもの貧困にいち早く取り組んだ先駆者です。テレビや新聞などのメディアでも見かけることもあり、遠い存在の方だと思っていたのですが、子育てのあるある話を一緒になって笑いながら話してくれる、気さくで行動力がある親しみやすい方でした。



日本の「子どもの貧困」の実態を聞いて驚きました。子どもの9人に1人が貧困状態。中でもひとり親世帯（約9割が母子世帯）の貧困は極めて深刻とのこと。

実際にキッズドアに通っている子の中には、自転車で40～50分かけて通っている子もいます。渡辺先生が「何でそんなに一生懸命に来てくれるの?」と尋ねると「家だとノートを広げられるスペースがない、ここに来るとノートも広げられ、勉強がしやすいから」と答えたそうです。家庭において最低限の学習する環境が整っていないのです。

このような貧困の連鎖を断ち切るには学習支援が必要です。子どもの貧困は福祉ではなく投資。将来1億円以上の効果があるそうです。1人を連鎖から救うことが国にとっても大きなプラスになります。

市内にも子どもに対する支援ボランティア団体があります。経済的困難家庭の中学生のための塾（もりサポ塾）、子ども食堂（ほっとカモン、もりんくる）、肢体不自由児・医療的ケア児の家族に活動の場所や情報を提供している（そら～ち）絵本の読み聞かせをする団体（おはなしどんどこどん!、お話まつぼっくり）と様々ですが、どの団体からも聞かれるのが「居場所づくり」です。規模は小さくなくても、キッズドアと同じように親身になって寄り添いながら活動を続けています。



講演会に参加された方からは、「子どもの貧困の切実さを感じた」「自分にできることを改めて考える機会にさせていただいた」「現実についての理解が深まり、前向きな取り組みに感動した。微力ながら支援していきたい」といった声が聞かれました。

渡辺先生は「おせっかい」な性格なんだそうです。

「困っている人がいたら、とにかく何とかしよう」と動き出す。地域はそれが出来る」と言われていました。

また「相談窓口が充実していても、相談で腹は膨れない」との言葉にハッとさせられました。

私たちは、ただ情報を事務所で待っているのではなく、自ら活動現場に足を運ぶことが重要と考えます。

団体さんには必ず何か困ったことはないかと、聞くように心がけています。そうすることで、団体さんとの信頼関係が構築できればと思います。これからも皆さんのサポートができるよう頑張ってます。